

真菌性肉芽腫症起病真菌に関する研究— I

病アユからの真菌の分離およびその病原性

畑井喜司雄 江草周三 高橋 誓・大江孝二
(三共中央研究所) (東京大学) (滋賀県水産試験場)

魚病研究 12(2) (1977)

1. 真菌性肉芽腫症罹病アユから Fish Meat Extract 寒天培地 (FME 寒天培地) を用いることである種の真菌の培養に成功した。培養真菌の形状は筋肉内のそれと酷似した。
2. 培養真菌をアユおよびキンギョに接種したところ、自然発症魚と同一の症状が再現された。
3. 病理組織学的に感染魚の患部を検査したところ、肉芽腫の形成を認めた。また患部から接種真菌が再分離された。
4. 本症は上皮の傷害ヶ所に菌糸片が付着し、そこから筋肉内に菌糸を伸長させ、そこで増殖することによって起される疾病であろうと推定した。
5. 本真菌を仮りに MG-fungus と呼ぶことを提案した。